

釜石祥雲支援学校

研究テーマ

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った
授業改善 ～学びをつなげる授業づくり～

(2年研究1年次)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

本校では、学校教育目標である「心豊かに生き生きと生活できる人間に育てる」ために児童生徒がどのような力を発揮しているのかを具体的に見取りながら授業実践を積み重ねていくことにより、「質の高い学び」に努めている。このような実践に加え、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った児童生徒への働きかけと新たな手立てを探りながら、前研究の課題である学習チェック(評価)の様式の見直しや活用を授業改善に役立てるとともに、学部間や教科横断的な学びといった「学びのつながり」を再構築することで更なる「質の高い学び」が実現されると考える。

(2) 研究の目的

前研究の成果や課題、新学習指導要領の内容を反映し、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の捉えを明確にして授業改善や支援方法を検討する。

(3) 研究の内容及び方法(1年次)

- ① これまでの研究の確認と今年度の方向性
・全校研究会の開催(5月30日)
- ② 新学習指導要領の改訂のポイントについての学習
- ③ 児童生徒の実態把握と情報共有
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」の捉え
- ⑤ 授業実践の推進、授業検討会(4回)
- ⑥ 全校授業検討会(2回)
- ⑦ 1年次の研究のまとめ
・全校研究会の開催(2月28日)

(4) 学部別研究

【小学部低学団】

児童の対話的な場面に焦点をあてた授業づくり
～集団の授業での児童の対話的な
場面を引き出す工夫～

【小学部高学団】

自分の思いを表現するための授業づくり
～教科間でのつながりを意識した

授業実践をとおして～

【中学部】

「わかる」「できた!やってみよう!」学んだことを生かせる授業づくり
～生徒の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践をとおして～

【高等部(一般的就労)】

作業学習における「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた表現力を高める支援方法

【高等部(福祉的就労)】

作業学習における「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた個々の意思表示を広げる支援方法

【重度重複障がい(自立活動)】

重度重複障がいを有する児童生徒にとって
「主体的・対話的で深い学び」とは
～個から集団への学びをつなげる授業～

2 講演会

演題:「支援を必要とする生徒との対話力アップ
セミナー」

講師:特別支援教育ネット代表

(元宮川医療少年院長)

社団法人日本LD学会名誉会員・

代議員・編集委員 小栗 正幸 氏

期日:令和元年7月29日(月)

場所:釜石大槌産業育成センター

3 研修会

研修報告会(10月17日)

第60回全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会
並びに総会(宮城大会)

4 刊行物

研究集録は刊行していません。

ホームページにて公開